



ちひろ・アンデルセンの世界

2019年7月20日(土)～9月30日(月)



1-1, おやゆび姫 1972年



1-2, 船を見つめる人魚姫 『にんぎょひめ』(偕成社)より 1967年

——百年もの年代の差をこえて、わたしの心に、
 かわらないうつくしさをなげかけてくれるアンデルセン—— いわさきちひろ 1964年

世界的に有名なデンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセン。その童話は、現在も、国境を越えて読み継がれています。いわさきちひろも、また、人の世の喜びや悲しみまでも描き出すアンデルセンの童話のうつくしさに心惹かれ、イメージをふくらませながら繰り返し描き続けました。

1940年代に描いた「お母さんの話」の紙芝居から始まり、1950年代後半から60年代半ばの子ども向けの文学全集がブームとなった時代には、10冊以上の童話集にアンデルセンの童話を描きました。1966年～1968年には、「おやゆび姫」「にんぎょひめ」「あかいくつ」などを絵本として描いています。その作品の総数は、850点を超えています。

本展では、第2次世界大戦後の日本の子どもの本の出版史を追いながら、ちひろが描いたアンデルセン童話を多数展示。その作品群から見えてくるアンデルセン童話への思いと、工夫を凝らしながら描いた表現の変遷をさぐります。



1-3, 踊るカーレン 「あかいくつ」(偕成社)より 1968年

展覧会名	ちひろ・アンデルセンの世界
会期	2019年7月20日(土)～9月30日(月) ○開館時間＝9:00～17:00(8月10日～8月18日のお盆期間は18:00まで) ○休館日＝7月24日(水) 9月25日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室1・2
料金	大人800円／高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円／障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料／視覚障害のある方は無料／年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
特別協賛	株式会社ジャクエツ
協賛	小野谷機工株式会社

展覧会の見どころ ①アンデルセン童話

30話の絵を一堂に出品！

日本でもポピュラーな「おやゆび姫」「人魚姫」から、あまり知られていない「あひる小屋で」「砂丘の物語」「ナイチンゲール」まで、数多のアンデルセン童話を手がけたちひろの仕事を紹介。30話の絵を一堂に出品します。

1-4, 「あひる小屋で」
『アンデルセン童話集6』(講談社)より 1963年



②どこがちがう？ 2冊の『マッチ売りの少女』

ちひろは1964年に出版された2冊の本で「マッチ売りの少女」を描いています。2冊の同場面を展示し、人物の向きやしぐさ、背景、構図などをさまざまに変えて描いた、ちひろの創意工夫を紹介します。



1-5, 「マッチ売りの少女」『幼年絵話全集(19)』(偕成社)より 1963年



1-6, 「マッチ売りの少女」『世界のどうわ10』(偕成社)より 1964年

③小企画「世界の童話から」——

メーテルリンクの「青い鳥」

1969年、ちひろはメーテルリンクの名作『青い鳥』を手がけています。空想の国や妖精たちが登場するこの絵本を、ちひろはイマジネーションを広げて描き出しました。展示室2では、小企画として絵本『青い鳥』を紹介します。



1-7, 夜の国で青い鳥をつかまえるチルチルとミチル
『青い鳥』(世界文化社/講談社)より 1969年

出展作品数 約80点

主な出展作品 絵本『おやゆび姫』 1966年/絵本『にんぎょひめ』 1967年/『幼年絵話全集(19)にんぎょひめ・マッチ売りの少女』 1963~4年/『世界のどうわ10 マッチ売りの少女』 1964年/五つぶのえんどうまめ 1972年/おやゆび姫 1972年/「花のダンス」 1966年 ほか

関連イベント

●紙芝居で楽しむ おはなしの会

日時:9月7日(土) 11:00~11:30

会場:絵本の部屋(予定)

参加費:入館料のみ 申し込み:不要

●ちひろ忌

日時:8月8日(木)

●ギャラリートーク

日時:毎月第2・4土曜日 14:00~14:30

会場:展示室1・2 参加費:無料(入館料のみ)

申し込み:不要(参加自由)

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-8, 五つぶのえんどうまめ 1972年



1-9, 花のダンス 1966年

<企画展>

童画の国のパイオニアたち

—日本童画家協会の7人—

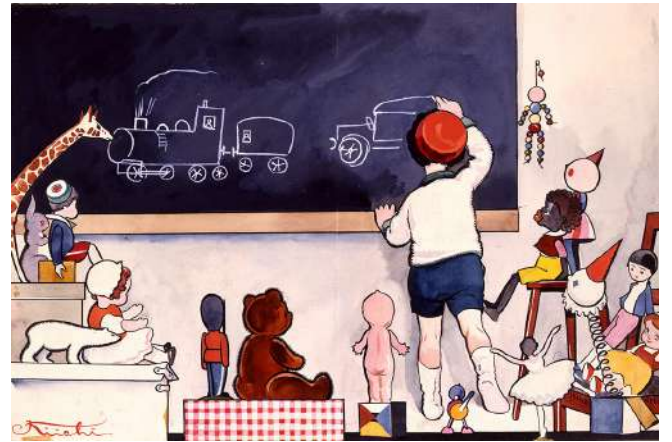
2019年7月20日(土)～9月30日(月)

絵雑誌の黄金時代を彩った童画家たちの競演

第一次世界大戦を経て、のちに大正デモクラシーと呼ばれる文化潮流が起こった1910年代。西欧から当時の先進的な技術や知識とともに、新しい芸術思潮や近代的な教育思想が一気にもたらされ、子どもに対しても、その個性を尊重する考え方が広まりました。1914年に「子供之友」、1918年に「赤い鳥」が創刊されたのを機に、芸術性の高い子どものための読み物や絵に彩られた絵雑誌が次々に生まれました。

それに刺激を受けた画家たちが、1927年、岡本帰一、川上四郎、清水良雄、武井武雄、初山滋、深澤省三、村山知義の7名で「日本童画家協会」を結成します。彼らは、一つの芸術として独立した子どものための絵画である「童画」を確立すべく、展覧会の開催や作品集の刊行を行い、童画界の発展に尽くしました。

童画のパイオニアであり、いわさきちひろを含め、多くの後世の画家や、子どもの文化に大きな影響を与えた7人の童画家たちが一堂に会する稀有な機会をお楽しみください。



2-2, 岡本帰一 チイサイセンセイ「コドモノクニ」1926年3月号
(東京社)より 1925年 ちひろ美術館蔵

いつのまにか私はたくさんのコドモノクニを見るようになっていた。(中略) 岡本帰一の絵が好きになり、武井武雄、初山滋の絵の夢にあこがれた。

いわさきちひろ 1968年



2-3, 武井武雄 レンズ「キンダーブック」1929年11月号
(フレール館)より 制作年不詳 イルフ童画館蔵



2-1, 清水良雄 なはとび「赤い鳥」1932年6月号(赤い鳥社)より 1932年 ちひろ美術館蔵

展覧会名	<企画展> 童画の国のパイオニアたち—日本童画家協会の7人—
会期	2019年7月20日(土)～9月30日(月) ○開館時間=9:00～17:00 (8月10日～8月18日のお盆期間は18:00まで) ○休館日=7月24日(水)、9月25日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室4
料金	大人800円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
協力	川上壮太、城田三茶、初山斗作、イルフ童画館、婦人之友社、弥生美術館、湯沢町

展覧会の見どころ 日本童画家協会の7人の画家が競演する稀有な展覧会

100年近い時を経て、日本童画家協会の7人の画家が一堂に会す展覧会は、開催が容易ではありません。子どもの本のイラストレーションの世界を切り拓いた童画家たちの競演をお見逃しなく！

「童画」の誕生ー「童画」という言葉の生みの親は、武井武雄ー

「童画」ということばは、1925年、武井武雄が初の個展「武井武雄童画展」で、子どものために大人が描いた絵という意味で、初めて公に使用しました。当時、武井らが絵筆を振るった「コドモノクニ」は、大判フルカラー、見開きページで絵を掲載する豪華なつくりの絵雑誌で、幼き日のいわさきちひろは、武井のほか、同誌で活躍していた岡本帰一や初山滋の絵を見て、胸をときめかせたと語っています。



日本童画家協会集合写真 イルフ童画館蔵
後列左より武井武雄、深澤省三、清水良雄 前列左より初山滋、川上四郎、村山知義

今も古びることのない魅力的な原画を多数出品

日本童画家協会は、「童心へのよき栄養となる」絵画、すなわち「童画」を広めるために、展覧会を開催し、作品集も刊行しました。本展では、その出品作を収めた「日本童画家協会作品集」(東京社、1929年)に掲載された岡本帰一の水彩画「びっくり」や、清水良雄の油彩の大作「昼の夢」などを展示。あわせて、同時期に日本童画会の画家たちが競演した総合児童雑誌「赤い鳥」や絵雑誌「子供之友」、「コドモノクニ」等に発表した作品や、彼らが手掛けた絵本『コドモエホンブコ』の原画など、戦前の貴重な原画も多数出品します。

出展作品数 約60点、関連貴重資料多数

主な出展作品 清水良雄 なはとび 「赤い鳥」1932年6月号(赤い鳥社)より 1932年 ちひろ美術館蔵/岡本帰一 びっくり 1929年頃(第一回日本童画家協会展出品作) ちひろ美術館蔵/清水良雄 昼の夢 1929年頃(第一回日本童画家協会展出品作) ちひろ美術館蔵/武井武雄 『コドモエホンブコ』ポスター原画 1928年 弥生美術館蔵 ほか

関連イベント ● 展示関連イベント 童画家・武井武雄の刊本作品の世界

日時：9月16日(月・祝) 14:00～15:00 講師：イルフ童画館・学芸員 河西見佳

会場：多目的ギャラリー 参加費：無料(入館料のみ)

定員：20名 申し込み：要事前予約(HP、TELにて)

● ギャラリートーク

日時：毎月第2・4土曜日 14:30～15:00 会場：展示室4 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-4, 初山滋 おむかえ「キンダーブック」1952年3月号
(フレール館)より 制作年不詳 個人蔵

右上画像 2-5, 村山知義 東京のまちの馬「子供之友」1924年3月号
1924年 婦人之友社蔵

右下画像 2-6, 深澤省三 「コドモエホンブコ 僕の乗物」1929年
弥生美術館蔵



2-7, 川上四郎 おばけ並木 1927年
湯沢町寄託

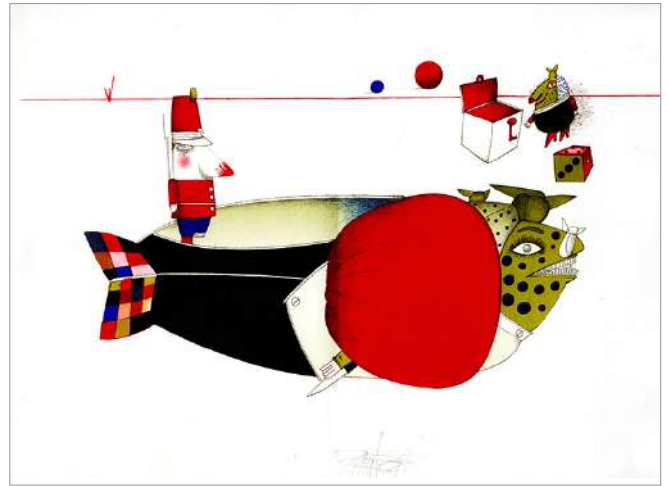
ちひろ美術館コレクション展

世界のおはなし

2019年7月20日(土)～9月30日(月)



3-1, ヤナ・キセロヴァー・シテコヴァー(スロヴァキア)『おやゆびひめ』より 2001年



3-2, クヴィエタ・ブツォウスカー(チェコ)『すずの兵隊』より 1985年

語り継がれる物語

古くから語り継がれてきた民話や昔話、アンデルセンやグリムの童話をはじめとして、100年以上もの時を経て今なお、世界中の人々に愛されている物語は、洋の東西を問わず多くの絵本画家たちを魅了してきました。同じ物語を題材にしても、画家によって技法や表現方法が異なり、それぞれに個性豊かな作品が生まれています。

本展では、ちひろ美術館コレクションのなかから、アンデルセンやグリムの童話のほか、ロシア民話、中国の「三国志」やルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」など、古くから親しまれている世界各国の物語を描いた作品を中心に展示します。描かれた物語を読み解きながら、絵本画家たちによるおはなしの世界をお楽しみください。



3-3, ローベルト・ブルン(スロヴァキア)『おかしな家のおとぎ話』より 1989年

展覧会名	ちひろ美術館コレクション展 世界のおはなし
会期	2019年7月20日(土)～9月30日(月) ○開館時間=9:00～17:00 (8月10日～8月18日のお盆期間は18:00まで) ○休館日=7月24日(水)9月25日(水)
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室3
料金	大人800円/高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
特別協賛	株式会社ジャクエツ
協賛	小野谷機工株式会社

展示会の見どころ **個性豊かな主人公たちー虫がねで見た小さな「おやゆび姫」、丸く膨らんだ「おかしの家」…**

アンデルセンの童話の「おやゆび姫」「人魚姫」「白鳥の王子」「すずの兵隊」のほか、グリム童話の「赤ずきん」「白雪姫」「シンデレラ」など、誰もがよく知る物語を描いた作品を展示します。おなじみの登場人物でも、緻密な描写から、極端にデフォルメしたもので、描く画家によってその姿は実にさまざまです。

民話や昔話のなかに息づく多様な世界の文化

ロシア民話に登場する灰色の狼に乗って旅を続けるイワン王子、中国甘肅省かんしゅうくに伝わるユグ族の弓使いの話など、それぞれの国や民族のなかで伝承されてきた物語を紹介します。画面に描かれた伝統的な建物や民族衣装からは、その背景にある世界の多様な文化が見えてきます。

出展作品数 約40点

主な出展作品 ヤナ・キセロヴァー・シテコヴァー(スロヴァキア) 『おやゆびひめ』より 2001年/クヴィエタ・パツォウスカー(チェコ) 『すずの兵隊』より 1985年/エリック・パトゥー(フランス) 『ペローの青ひげ』(講談社)より 2000年/ロベルト・インノチェンティ(イタリア) 『ピノキオの冒険』(西村書店)より 1987年/タチャーナ・マープリナ(ロシア) 『ロシアの昔話』(福音館書店)より 1950年/于大武(中国) 『三国志絵本 十万本の矢』(岩波書店)より 1997年ほか



3-4, ロベルト・インノチェンティ(イタリア)『ピノキオの冒険』(西村書店)より 1987年

図版について 本リリリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

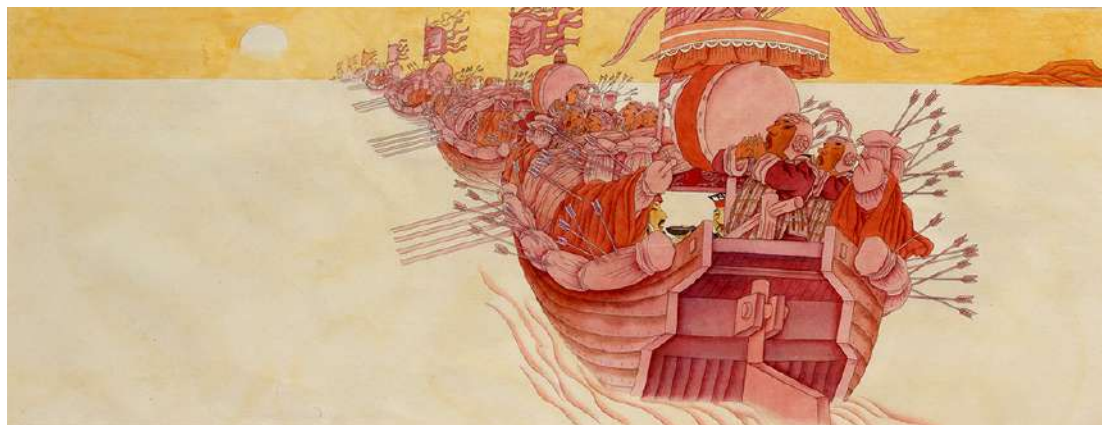
※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。
※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。
※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。
※掲載紙/誌をご送付ください。



3-5, アンドレア・ベトルリック・フセイノヴィッチ(クロアチア)『不思議の国のアリス』より 2002年



3-6, タチャーナ・マープリナ(ロシア)『ロシアの昔話』(福音館書店)より 1950年



3-7, 于大武(中国)『三国志絵本 十万本の矢』(岩波書店)より 1997年

鈴木まもるワークショップ

「鳥の巣をつくろう」

9月8日(日) 9:30～11:30

絵本画家で鳥の巣研究家でもある鈴木まもるさんから、鳥の巣についてのおはなしや本物の鳥の巣を見せてもらいながら、干し草や手芸用品などを使って、鳥の巣をつくります。

会場：多目的ギャラリー 参加費：1000円(入館料別) 定員：20名 対象：5歳以上
親子参加も可能です。申し込み：要事前予約(HP・TELにて受付・先着順8月18日〆切)



展示関連イベント

童画家・武井武雄の刊本作品の世界

9月16日(月・祝) 14:00～15:00

童画家として多くの仕事を残した武井は、その傍らで、「刊本作品」と称した手づくり本を139冊残しました。物語づくりから装丁、素材、印刷方法まですべてをプロデュースした刊本作品は、子どもの心を捉えた童画と同様に、多くの大人を魅了しました。イルフ童画館の学芸員に、刊本作品について解説していただきながら、童画、創作版画、玩具の収集など、多岐に渡る武井武雄の世界を紹介します。

講師：イルフ童画館・学芸員 河西見佳 会場：多目的ギャラリー 参加費：無料(入館料のみ)
定員：20名 申し込み：要事前予約(HP・TELにて受付・先着順)

展示関連イベント

紙芝居で楽しむ おはなしの会



9月7日(土) 11:00～11:30

ちひろの描いた紙芝居や、其他のおはなしを、絵本とはまたひとつ異なるかたちでお楽しみいただけます。ぜひ、子どもから大人までご参加ください。

会場：絵本の部屋(予定) 参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：不要(参加自由)

死神を追いかける母親
(紙芝居「お母さんの話」習作) 1947年頃

朝のおはなしの会

8月4日(日) 9:30～10:00

心地よい安曇野の朝のひとつ、絵本の読み聞かせや手遊びを行います。
参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

夜のミュージアム —Night Museum—

8月24日(土) 21:00まで開館延長

夕暮れどきからライトアップされた幻想的な夜の美術館(設計：内藤廣/照明：LPA)で、ゆったりとした時間をお楽しみください。

参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

○浴衣でご来館の方には、カフェにて
ワンドリンクサービス

○安曇野ちひろ公園にて肝試しを開催

○すずむしの音色を楽しもう

主催：松川村観光協会

「すずむしの里クリスタルシンフォニー」の一環として、安曇野ちひろ公園で「すずむし捕り」が行われます。

(参加無料・雨天中止)



撮影：中川敦玲

次回展のご案内

10月4日(金)～12月15日(日)

- ちひろ・ていねいなくらし
- <企画展> 瀬川康男展 一いのち物語る—
- ちひろ美術館コレクション展 国交100周年
ポーランドとフィンランドの絵本

中学生ボランティアと楽しむ

夏休みワークショップ

ちひろの水彩技法体験 ～にじみの缶バッチづくり～

8月1日(木)～8月16日(金)

夏休み恒例、地元・松川中学生ボランティアとともにを行うワークショップ。子どもから大人まで楽しめるプログラムです。



会場：子どもの展示室(トットちゃんの部屋) 予定 参加費：200円(入館料別)
定員：各回15名 申し込み：要事前予約(当日館内にて受付)

美術館ガイドツアー

8月10日(土)～8月16日(金)

松川中学生のガイドボランティアが美術館や安曇野ちひろ公園の見どころ、作品の魅力などを紹介します。



参加費：無料(入館料のみ)

定員：各回15名 申し込み：要事前予約(当日館内にて受付)

絵本の読み聞かせ

8月6日(火)～8月9日(金)

松川中学校の図書委員が、絵本の読み聞かせを行います。

会場：絵本の部屋
参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：不要(参加自由)



入館無料デー

ちひろ忌 8月8日(木)

今年は、いわさきちひろがこの世を去って、45回目の命日。ちひろを偲び、彼女が生涯願った世界中の子どもたちの幸せと平和を、ご来館のみなさまと分かちあう一日にしたいと思います。

広島で被爆した子どもたちがつづった詩や作文に、ちひろが絵を描いた『わたしがちいさかったときに』(童心社)の朗読会を予定しています。

敬老の日 9月16日(月・祝)

65歳以上入館無料

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:00～ちひろ展 / 14:30～企画展

参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや

素話を、親子でお楽しみください。

日時：毎月第2・4土曜日 11:00～11:30

参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

Information

8月は休まず開館します。

お盆期間(8/10～8/18)は18時まで開館延長します。

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 高津・宗像・田邊・畔柳
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
E-mail:apublicity@chihiro.or.jp